

2011年3月28日中央環境審議会
ご指摘事項の進捗

2012年3月27日
3R推進団体連絡会

昨春の中央環境審議会でのご指摘について

昨年3月28日の中央環境審議会において3R推進団体連絡会は2015年を目標年度とする第二次自主行動計画を発表いたしました。その際に座長をはじめ委員各位から、様々なご指摘と激励を頂戴いたしました。

当連絡会は容器包装の8素材団体で構成しており、3R推進のために、事業者としての役割を深めていくとともに、主体間の連携に資する取り組みを進めております。

ご指摘を頂きました内容は、当連絡会の3R推進に向けた今後の取り組みに活かすべく、活動を進めて参ります。

前回のご指摘に対するこの一年間の取り組みは、必ずしも十分とは申しませんが、

ご指摘頂きました課題の進捗と見解につきまして、各団体ごとの主要テーマに即して報告をさせていただきます。

『マイボトル・マイカップ、そして、びんリユースの存続』

ガラスびんリサイクル促進協議会

- 消費者・自治体・流通等の連携の下に、市場特性に合った地域型びんリユースシステムの再構築
- 環境省検討会に参加し、新たな推進体制として「びんリユース推進全国協議会」(2011年9月設立)の立ち上げ

『軽量化PETボトルのリサイクル適性低下』

PETボトルリサイクル推進協議会

- 再商品化事業者はリサイクル工程での
手選別工程の強化、風選分離の工程改善・増設にて対応

皆さまには、分別排出の際のラベル・キャップの取り外しに
尚一層のご協力を！

『サプライチェーン(流通小売業)との連携』

PETボトルリサイクル推進協議会

- 自主設計ガイドラインに準拠した商品販売の協力要請
- 店頭回収の拡大の可能性 等について協議を開始

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

- 連携・協働の一環として、使用済みレジ袋の店頭回収、リサイクルの実証に取り組み、
回収ルートが多様化とごみ袋への新たなリサイクルについての検証を目指す

『リサイクル指標統一への努力を』

PETボトルリサイクル推進協議会

- 第二次自主行動計画において、
回収率 ⇒ リサイクル率(回収・再資源化率)に変更

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

- 第二次自主行動計画において、
収集率 ⇒ 再資源化率に変更

変更理由:リサイクルの進捗を示す指標とする

2015年度目標 = 2010年度の実績比3%アップの44%

集計方法:容器包装リサイクル協会の再商品化実績量+事業者の
自主的回収・リサイクル実績量 / 排出見込み量

『海外への3R推進状況の情報発信』

3R推進団体連絡会

- HPに2010年自主行動計画フォローアップの英語版を掲載

スチール缶リサイクル協会

- 海外からの要請にもとづき、スチール缶リサイクルの毎年の調査結果(英語版)をHPに掲載

PETボトルリサイクル推進協議会

- HPにて 活動内容、自主設計ガイドライン等を英文解説
- ① 2011年12月 於:タイ「**PET OUTLOOK Bangkok**」
② 2012年2月 於:スイス「**POLYESTER & PET CHAIN**」
日本のPETボトルの3R推進状況を、ふたつの国際会議で
発表

PET Bottle Recycling in Japan



PET

Feb. 16, 2012

The Council for PET Bottle Recycling (CPBR, Japan)

TAKAHASHI, Koji <MCT PET RESIN Co., Ltd.>



5. 3R (Reduce, Reuse, Recycle) in Japan



Voluntary Design Guidelines for Designated PET bottles = Obligation of PET Bottle Manufacturers & Users



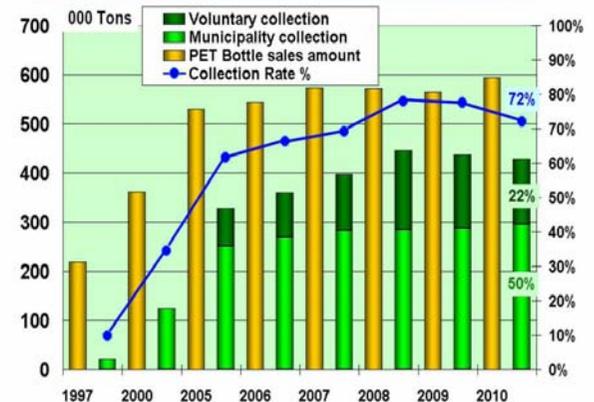
Plastic Closures must be made of PE or PP. Do not use Aluminum Closures.

Bottles must be made of only Clear PET (no color). When use multi-layer / coating for barrier, must evaluate a recycling performance.

Labels must be easily removable by hand.

5. 3R (Reduce, Reuse, Recycle) in Japan

Collection Status of PET Bottle



『素材メーカーとの協働による単一素材化』

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

- 単一素材で機能が発揮できる容器包装は、単一素材のままで使用されている
- 単一素材で限界のある場合に、素材特性、加工方法・技術の適切な組合せによる最適化を図っている

容器包装の本来の機能である、中身製品の保護、安全・安心の確保を前提とし、製品のライフサイクル全般を通じての環境負荷の軽減に取り組む（環境配慮設計）

『震災にともなう熱回収を考える前に、 有害物質の調査を』

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

- 国内の容器包装製造メーカー および その海外工場の製品の着色剤等には重金属は使用されていない

今後とも 3R推進団体連絡会の活動に関しまして

ご理解、ご指摘 等

よろしくお願い申し上げます。